

平成22年度第1回 山形県立図書館協議会 議事録要旨

日時：平成22年7月15日午後1時30分～午後3時

場所：遊学館2階チェリア学習室

出席者

・協議会委員

舛田委員長、竹田委員、孫委員、沼野委員、佐藤晶子委員、佐多委員、佐藤政彦委員

・県立図書館

佐藤館長、渡会副館長、佐藤主幹、渡辺主幹、山中資料管理専門員、小野寺資料整備専門員、富樫運営企画専門員、小林総務専門員

・県教育庁生涯学習振興課

井上生涯学習振興課長、保利主査

協 議

平成21年度運営の実績について（事務局から説明）

所蔵資料について

利用実績について

企画展等実績について

子どもの読書活動の推進支援について

○ 竹田委員

0～20代の利用者が昨年より減少しているようです。少子化や活字離れの影響があるのかなどと心配されるが、図書館ではこのような傾向をどのように捉えていますか。

○ 事務局

0～20代の利用者数は若干減少しているが、その貸出し資料数はわずかながら増加しています。平成21年度は、むしろ、60代以上の利用者数、貸出し資料数の増加が大きかったと受けとめています。

○ 沼野委員

平成19年度からスタートしたインターネット予約資料数の伸びが大きく、21年度は6,459件と前年度にくらべ3割近い伸びになっているようです。これは「予約」の数ということですが、実際に手にすることができたのは、どれくらいになっていますか。

○ 事務局

インターネットで予約したあと、市町村立図書館で受け取る方法と県立図書館で受け取る方法とがあり、前者が57%、後者が43%の割合になっています。

○ 沼野委員

また、先ほど話した、利用者数の統計区分が、0～20代、30～50代、60代以上となっていたが、利用傾向をよりの確に把握するためもう少し区分を細かくして頂きたい。

○ 佐藤晶子委員

できれば、小学生、中学生のようにさらに細かく分けたデータを持ち、それを元にそれぞれの年代にあったサービスを積極的に行うようにして頂きたい。小学生が読む児童書は揃っている。高校生以上でないと難しい本がある。その中間の中学生が谷間になって適当な本がない。でも、中学生の時期も、とても大切な時期であり、適当な本を揃えてあげたい。このように考えると、子どもの場合は年齢区分をさらに細かくしてニーズをとらえる必要がある。また、高齢者も60代、70代、80代では全然違うので。

○ 佐藤晶子委員

また、県立図書館の蔵書検索システムを使ってみました。思うように検索できずもどかしい思いをしました。今すぐとは言いませんが、ぜひ改善して頂きたい。

○ 舛田委員長

孫委員は、図書館情報学の専門ですが、この点については、どうですか。

○ 孫委員

これは、山形県立図書館に限ったことではなく、図書館の検索システム（OPACシステム）の水準がまだまだで、かゆいところに手が届くようにはなっていません。現在、利用者の心を読んでもくれるようなシステム作り、次世代検索システムの開発が進められているので、もう暫くすると、もっといいシステムができます。

○ 事務局

山形県立図書館においても、来年3月に新しい図書館情報システムへの切り替えを予定しています。この中で、検索システムも現在の件名、著者名、出版年などに加え資料の内容全体からも検索できるようにしますので、現在より若干使いやすくなると思います。まだまだ十分ではありませんが、今後も改善に努めていきたいと思っています。

平成22年度運営方針等について（事務局から説明）

運営方針について

組織体制について

予算について

企画展等実績について

子どもの読書活動の推進支援について

創立100周年記念事業について

○ 佐多委員

私が県立図書館協議会の委員として関わるようになってから、県立図書館がいちばん変わったと思うのは、子どもに対する様々なアプローチをするようになったことです。子どもに対する展示のしかたの工夫など、以前はあまりみられなかったように思います。百周年事業では図書館の関係者が集まって県立図書館のこれまでを振り返るということもあると思いますが、一般の方が家族みんなで図書館に親しむようなきっかけにもなればと思います。

ます。そこで、百周年事業の際に保育室を設けるといふようなことはできないものでしょうか。親が講演会を聴いている間、子どもは保育室で読み聞かせとか楽しく遊ぶということになればいいと思います。

○ 事務局

場所としては、遊学館内のチェリアにスペースがあるので、そこを借りてできないか検討したいと思います。保育のボランティアを頼めるかどうか当たってみます。

○ 舛田委員長

先ほど、ヤングアダルトおすすめ本の計画の説明があったが、ヤングアダルトとは、どの年代をさして言うのでしょうか。

○ 孫委員

大体13歳から18歳あるいは20歳くらいまでという定義です。大人になりたいもあり大人になりたくないという複雑な気持ちを持っている年代を表しているようです。

○ 舛田委員長

いつも感じていることですが、広報活動を積極的に行っていただきたい。せっかく、いい図書館があるのに、一般県民に伝わらないというのはさびしいことです。

○ 孫委員

就職に関する資料コーナーを設置するということですが、県立図書館は県の情報拠点でもあるので、資料コーナーに加えて図書館のホームページに就職関連のリンク集を貼るようにはどうですか。

○ 事務局

検討します。

○ 孫委員

調査相談（レファレンス）の件数が前年より減少しているようです。これが、市町村の図書館で十分に対応できているということであればいいのですが。

県立図書館としては、市町村の図書館では難しいというような調査相談にも対応できるということをもっとアピールしたらいいのではないかと。

○ 佐藤晶子委員

郷土資料がどの図書館にあるかということ、県立図書館で紹介していただけるといいと思います。

○ 舛田委員長

数年前に資料収集分担の一覧表（注1）を見せてもらったことがある。県立図書館で全部の資料を持っていなくても情報があればよい。

○ 佐藤晶子委員

こんなことを聞いてもいいのかと、相談する前に遠慮してしまいがちです。

○ 孫委員

それは、日本人の心の美しいところですが、調査相談に応じるのが図書館の役割なので、図書館のほうから、遠慮せずに聞いていいということを積極的にPRして頂きたいと思います。

○ 事務局

おっしゃるとおりです。県立図書館でも、たとえば、上杉氏に関する相談に対しては米沢市立図書館の協力を得てお答えするというように市町村との連携を図って調査相談にあたっているところです。

○ 沼野委員

図書館は、利用者と直接接する場所なので、生のデータの把握が可能なはずだと思います。これを利用して、しっかりした基礎データをもとに、利用者のニーズにきめ細かく対応していただきたい。また、市町村ともデータを共有してそれぞれのサービス向上に反映していただきたいと思います。

○ 竹田委員

生徒を指導する立場からお尋ねしたいのですが、高校生の利用者に対して、図書館側からの注文はありませんか。

○ 事務局

特に注文はありません。ただ、小、中学校から高校になるにつれて受験勉強などが忙しくなり読書から離れる傾向がみられるようです。高校生など若い世代の読書推進については、学校との連携が必要ですので、今後、学校側とも相談して対策を講じていきたいと考えています。

○ 井上利也生涯学習振興課長

委員の皆様から貴重なご意見をいただきありがとうございます。県民の皆様がぜひ県立図書館に行きたいと思うような、他県の図書館とは違う市町村の図書館とも違う山形県立図書館の魅力づくり、潜在的ニーズの掘り起こしに積極的に取り組んでまいりたいと思います。

(注1)「市町村別特定主題資料収集分担一覧表」。例えば、上山市立図書館では、斎藤茂吉、干し柿、温泉、かせ鳥、尾花沢市立図書館では、松尾芭蕉、スイカ、銀山、花笠踊りのようにテーマごとに中心館を定め分担連携して郷土資料の収集保存を行っている。そのテーマごとに所蔵資料のリストをまとめたものが「特定主題文献目録」。